

拝啓 今年もはや9月末となりました。お元気でお過ごしのことと思います。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、きんもくせいのつぼみから、ほのかな香りがただよう頃となりました。

カール・ヒルティ先生の『眠られぬ夜のために』の第5回目をお届けします。

ヒルティ先生の原稿で感ずることは、ヒルティ先生は、聖書の勉強をずいぶんされた方だということです。旧約聖書を含め、聖書の引用が自由自在に出てきます。なお、『眠られぬ夜のために』では、聖書箇所だけしか出ていないことが多いのですが、私は、口語訳聖書から引用してその日の冒頭に持ってくる編集をしています。これは、内村先生の「一日一生」などの編集方針ですが、引用の聖書箇所の方からも訴えられることが多いという経験からです。

また、「10月31日」のところに、何かよいことを思いつくときは、常に電光のような性質を帯びる、そのときすばやく決意して、すぐさま実行するのが人間のなすべき務めである、とあります。茂木健一郎氏の脳の科学の本にも、思いつきは瞬間的でありその捕まえ方について書いてありました。これはカーライルの「目の前の義務をなせ」の系であると思います。カーライルのことばは、「あすのことを思い煩うな」というイエスのことばから来ており、新渡戸先生、内村先生、南原先生、矢内原先生が、多くの仕事をなされたのは、ひらめきと決断と実行が結びついていいたからではないでしょうか。

9月14日(月)6時から、神田学士会館で、第6回新渡戸・南原賞授賞式が行なわれ、事務局を勤めました。本誌の読者である米倉安雄さん御夫妻に手伝っていただき、感謝でありました。今年は「国家の品格」などの著者の藤原正彦先生と元東大出版会の専務理事で南原先生の多くの本を編集出版された石井和夫さんが授賞されました。石井和夫さんが、3年前になくなられた奥さんお写真を持参され、テーブルの上において、式と祝賀会に臨まれましたが、石井さんはこの受賞が本当にうれしかったのだと思い、よかったと思いました。藤原正彦先生は、作家の新田次郎の次男ですから、子供のころ気象台の官舎に住んでおられました。その官舎が竹橋の毎日新聞社のところにあり、学士会館のあたりは私の領土のようなものであったというスピーチをされましたが、絶好の場所で授賞式が開かれてよかったと思いました。

10月10日に姪の結婚式がフランスのマルセイユの近くのカシスというところであり、10月7日から1週間ほど夫婦でフランスに行っています。

季節の変わり目に当たり、皆様も御身体御自愛の程祈り申し上げます。敬具
平成21年9月24日

山口周三

エンカウターの読者各位